

2024 SUPER TAIKYU Round.5

SUZUKA

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI / N-RAK PHOTO AGENCY

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024
Empowered by BRIDGESTONE
第5戦 SUZUKA S耐

2024年9月28日(土)～9月29日(日)
鈴鹿サーキット(三重県)



ひさびさの参戦は試練の週末に。ひとりひとりに経験を残す

ORC ROOKIE Corolla H2 Concept と ORC ROOKIE GR86 CNF Concept の2台で参戦した第3戦オートポリスから約2ヶ月。第4戦もてぎをスキップした ROOKIE Racing は、三重県の鈴鹿サーキットでひさびさのスーパー耐久のレースウィークを迎えた。第3戦にも参戦しなかった中升 ROOKIE AMG GT3 は、約4ヶ月ぶりのレースだ。

そんな一戦に向け、32号車には第1戦 SUGO 以来となる ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept が登場した。ただしこの車両は、第1戦とは別物だ。モリゾウの提案により、モータースポーツの間口を広げ、参加者の助

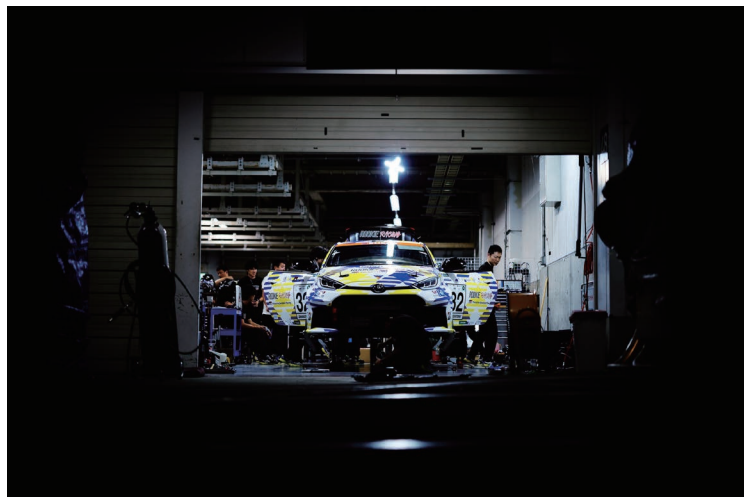
けとなるべく新たなロールケージが取り付けられているものだ。

ロボット技術を使い、これまで熟練した職人の技術を上回る溶接を実現したロールケージは『SFA工法』と名付けられた技術を用いており、これまでのロールケージからは大幅に剛性がアップしていた。これに DAT を組み合わせたものとなる。

そして、これまで乗りづらさがドライバーから訴えられていた ORC ROOKIE GR86 CNF Concept は、リヤを中心に足回りを改善。さらにプロドライバーの視線をデータとして集め、将来の自動運転技術等に活かすトライもスタートしていた。

また2戦をスキップしたことで、ランキングが4位に後退した中升 ROOKIE AMG GT3 は、このレースで勝利を飾り、ふたたび

ST-X クラスのチャンピオン争いに名乗りを上げることを目指し、並々ならぬ意気込みで第5戦鈴鹿を迎えていた。



特別スポーツ走行／STMO 専有走行

9月26日(木)～9月27日(金) 天候：晴れ／曇り 路面：ドライ



ROOKIE Racingにとってひさびさのスーパー耐久のレースウィークとなった第5戦は、9月26日(木)にスタートした。晴天で、間もなく10月になるとは思えない蒸し暑さのなか、まずは午後0時15分からの特別スポーツ走行グループ2にORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptが出走した。

ORC ROOKIE GR Yaris DAT Conceptは、まずは佐々

木雅弘がドライブしたが、「このクルマは富士で一度乗ったのですが、印象がすごく良くなかったんです。剛性が上がってはいるものの、ボディにしなやかさがありません。今回も合わせ込みはじめていますがまだまだ。でも良い方向に向かっていきます」とタイムは相応に出ているものの、苦い表情だ。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは第3戦オートポリスからリヤの足回りを修正するなど改良を進めてきた。

ただ、豊田大輔は「多少の改善はあっても、まだ気持ち良く走れていません」という。

この悩みは、9月27日(金)も続いた。坪井翔は「いまの範囲からすれば良くなっていますが、そもそも求めているものはその範囲の外にあるんです。クルマの状況はかなり悪いです」とORC ROOKIE GR86 CNF Conceptの状況を語った。

「タイヤが新しいときは良いのですが、グリップがなくなるとイヤなところが出てしまいます」

さらに、ORC ROOKIE Yaris DAT Conceptは、この日朝からエンジン交換を強いられた。「トラブルがあって、走ることはできるのですが、このまま走るとリスクがある」と石浦宏明監督。作業は午後の走行を前に終わったものの、やはりトラブルが解消しない。チームはエンジンをその場で解体するほどの作業を強いられながらも、原因究明に取り組んだ。この日は結局1周もできず。問題は深刻そうな印象だった。

一方、2戦ぶりのレースとなる中升 ROOKIE AMG GT3は、「チームとしても感覚を取り戻しながら、パフォーマンスはしっかり上げたいと取り組みましたが、昨年とはタイムも大きく違うので、目指すところを探っていた一日でした」と片岡龍也監督が語る初日を経て、9月27日(金)の2日目の2回の専有走行も精力的に取り組んだが、ベストタイムとしては午前は4番手、午後は5番手と伸び悩んだ。

鵜飼龍太は「第2戦からしっかりいろんな課題に取り組む準備はしましたが、鈴鹿はやはり走れば走るほど難しいです」という。「ひとつひとつ確認しながら予選に向けて準備したいです」と翌日の予選、そして決勝に向けて語った。



公式予選

9月28日(土) 天候：晴れ 路面：ドライ

明けた9月28日(土)の鈴鹿は曇り空。夜半までの作業を経て、ORC ROOKIE GR Yaris DAT Conceptはエンジン内部、DAT内部のトラブルを発見。対策を施し、午前10時30分からのフリー走行では電気系トラブルがあったものの、ようやくトラブルを解決することができた。

そんなフリー走行を経て、迎えた午後2時からの公式予選。まずはグループ2のAドライバー予選に、モリゾウが出走した。

2周目、2分23秒178とい

う素晴らしいタイムを記録したが、3周目のスプーンでモリゾウは車速が上がらないと感じ、コースサイドに一時クルマを止めることになってしまった。

ただなんとかピットに戻り、確認を行ったところ、スロットル系のトラブルであることが判明。すぐに問題は解決し、Bドライバー予選の佐々木は2分17秒809までタイムアップ。今週ようやくドライブすることができた石浦宏明、小倉康宏とともにしっかりと予選を終えた。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptはまだまだ乗りにくさはあるものの、佐々木栄輔が2分22秒213を記録。坪井翔が2分18秒253を記録し、ORC ROOKIE Racingの2台は総合で35～36番手につけた。

そして、専有走行まではやや苦しい展開だった中升 ROOKIE AMG GT3は、Aドライバー予選で鵜飼が2分05秒858という好タイムを記録。「今あるなかでのポテンシャルは引き出せたのではないかと思います」という納

得のタイムとなった。Bドライバー予選では、蒲生尚弥が2分03秒231に。合算でフロントロウの2番手につけた。「持ち込みから考えると、かなり乗りやすい状態で予選ができました」と片岡龍也監督は振り返った。



GR YARIS

#32 決勝レース

9月29日(日) 天候：曇り 路面：ウエット～ドライ

9月28日(土)のAドライバー予選まで、さまざまなトラブルに見舞われてきた ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept。とはいえ、Bドライバー予選以降トラブルは鳴りを潜めていた。

迎えた9月29日(日)の決勝日、鈴鹿サーキットは曇天だったが、集まったメディア向けにSFA工法を使ったロールケージの説明をパドックで行っていた頃、サーキットには雨が降り出した。時折強く降り、路面コンディションはウエットに。すでにチームはスタートドライバー申請を行っていたが、今回申請されたのはモリゾウだ。午前11時からのスタート進行の間に少しずつ路面は乾いており、ジェントルマンをスタートに据えていたチームの多くはウエットタイヤを履いていた。

しかし決勝を前に、佐々木雅弘はモリゾウにスリックタイヤでのスタートを提案した。「モリゾウさんはニユルブルクリンクでもたくさん走っていますし、今のモリゾウさんならいけると信じていました。判断を誤ったら大変なことになるとは思いましたが(苦笑)」と佐々木は振り返ったが、その判断にモリゾウはこれ以上な

いかたちで応えた。1周目からアクシデントが起きるスリッピーな状況のなか、モリゾウは素晴らしいペースで走りはじめたのだ。

ORC ROOKIE GR Yaris DAT Conceptは、DATの使用やロールケージの違いをのぞけばST-2クラスの車両と大きくは変わらない。しかし、そのST-2クラスのGR Yarisとほとんど変わらないタイムで序盤のレースを進めたのだ。スタートから54分のスティントをきっちりこなすと、佐々木にステアリングを託した。

そんなモリゾウの頑張りに、佐々木も応えないわけにはいかない。フルコースイエローが多発する荒れた展開のなか、一度ペナルティを消化した後、2分22～23秒ほどの好ペースで周回を重ねた。「予選までは僕が求めている動きにはなっておらず、今日やりたいことを試したのですが、どんどん良くなっていました。金曜は走れませんでしたでしたが、トラブルも皆さんが解消してくれたおかげで今日走ることができました」と佐々木。

スタートから2時間25分を走り、佐々木は小倉にステアリングを託した。この週末、あまりドライブする機会がなかったが、小



倉は「運転が楽しめるのはやはりDATですね。それと剛性が上がっていますが、佐々木選手のセットアップのおかげで以前のクルマに近づいていますし、今回詰め切れることはできませんでしたが、どんどん良くなっています」と快調にレースを進めていた。

しかしスタートから3時間25分過ぎ、ヘアピンで小倉はまさかの事態に遭遇した。鶏飼龍太がドライブしていた中升ROOKIE AMG GT3と接触してしまった。

小倉はイン側のグリーンに車両を一時止めたが、幸いふたたびコースに復帰することができた。ピットに戻った後、小倉と鶏飼はお互い苦笑いで詫びあった。

「一時はどうなることかと思いましたよ(苦笑)」と小倉。

ORC ROOKIE GR Yaris DAT Conceptは幸いダメージもなく、最終スティントを石浦が担当することになった。石浦は終盤一度ピットに戻ることもあったが、確実に周回を重ね、ST-2クラスの車両を2台上回る総合30位でフィニッシュした。

「足回りを佐々木選手が煮詰めてくれたおかげでバランスも悪くなく、決勝ではST-2クラス優勝の

#225 GR Yaris と同等か引き離すくらいのペースで走ることができました。ボディ剛性と足回りの良さが活きたのではないかと思います」と石浦。

「予選からはトラブルもなかったですし、最近32号車はトラブルも多かったのですが、その流れを断ち切ることができたと思います。実は木曜、頭に鳥の糞が落ちてきたのですが、運がついてきたということですかね(笑)」

土曜までは苦い表情が多かったチームだが、最後はしっかりと成果を示すことができた。石浦監督をはじめ、レース後のメンバーには安堵の笑顔が生まれていた。



GR86

#28 決勝レース

9月29日(日) 天候:曇り 路面:ウェット〜ドライ



公式予選から一夜明けた鈴鹿サーキットは、朝から曇り空。走行初日こそ蒸し暑かった鈴鹿だが、この日は雲も厚く気温も低い状況で迎えた。そんななか、午前9時30分過ぎには強い雨が降り出し、今週末初めてコースはウェットコンディションとなってしまった。

午前11時から決勝レースに向けたスタート進行が始まったが、レースに向け給油を行っていた ORC ROOKIE GR86 CNF Concept にまさかのトラブルが襲いかかった。原因は燃料漏れ。安全に関わるものであり、交換は急務。ただ燃料タンクはそう簡単

に外せるものではない。コース上にライバルたちが整列し、グリッドウォークで賑わうなか、チームは大至急で燃料タンク修復の作業をスタートさせたが、グリッドから戻ってきた豊田大輔は「厳しいかもしれません」とボツリ。ドライバーたちはメカニックを信じて、ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept や中升 ROOKIE AMG GT3 の戦いぶりを見つつ、ピット裏で控えることになった。

メカニックたちは懸命な作業で修復を進めていったものの、レースは刻一刻と進んでいく。そんななか、レーススタートから2時間強が過ぎたころ、現場での修復は不可能であるとして、残念ながらリタイヤが決まった。

「誰も悪いことをしているわけではないので……。今回のことを再発防止ができるのかは分かりませんが、準備をしてきたのに起きてしまった。こういうこともあるんですね。とはいえ、前を向いていきたいと思います」とテントで見守っていた大輔は悔しい表情を浮かべ、メカニックたちに感謝を伝えた。大輔が言うとおり、チームスタッフの誰が悪い訳でもない。だからこそ悔しさも募る。

その思いは、専有走行でも新たな視線のテストを行っていた坪井も同様だ。多くの車両が走るなかでふたたびゴーグルを装着して、他車がいる中での視線のデータを集めるはずだった。

「悲しいですね。本来、レースがスタートしてからの混戦のなかで、どんな危険回避をしているかのデータを集めるはずだったのですが、その目的を果たせず残念に思っています」と坪井は語った。

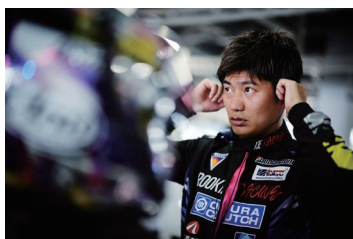
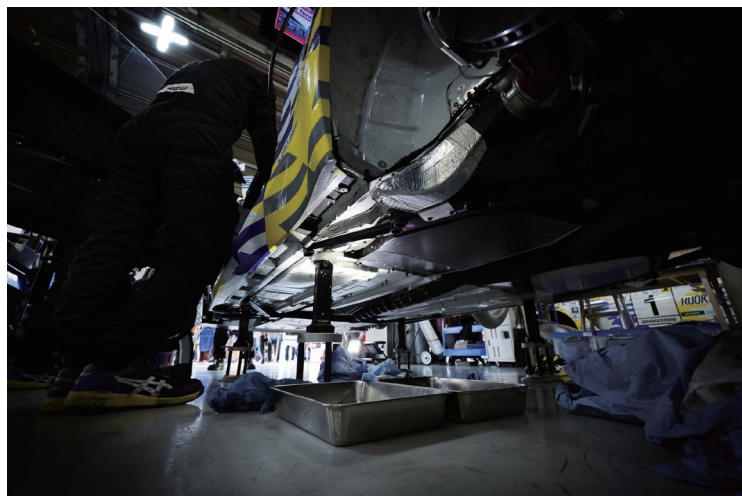
そして「これまで問題があったリヤの動き、足回りの違和感はいろいろ確認も進み、決勝レースに向けて用意していたセットアップは今季のなかでは乗りやすくなっ

ていたんですが」と悔しがったのは大嶋和也監督。

「ギヤが渋かったところなども見直してもらいましたし、確実に進歩はしていると思います」

その進歩を、5時間の決勝レースでしっかりと確認したところだったが、ORC ROOKIE GR86 CNF Concept は残念ながらピットでレースを見届けることになってしまった。

とはいえ、これもレース。『モータースポーツを起点としたもっといいクルマづくり』のための大きな試練でもある。次戦は岡山国際サーキット。チームはさらに強くなって戻ってくる。



AMG

#1 決勝レース

9月29日(日) 天候:曇り 路面:ウエット〜ドライ



迎えた9月29日(日)の決勝日。鈴鹿サーキットは朝から曇り空となっていたが、スタート進行の1時間半ほど前から、サーキットには雨が降り出した。時折強く降るときもあり、コース上は完全にウエットとなった。

ただ、午前11時からのスタート進行の間に雨は止み、コース上は少しずつ乾きはじめた。今回は50台以上の車両が一斉にレースを戦う。路面は急速に乾いていくとチームは判断し、スタートドライバーを務めたジュリアーノ・アレジはスリックタイヤを履いて5時間のレースのスタートに向かっていった。

1周目、まだ路面が濡れるなか、アレジはなんとか4番手をキープしていく。ST-Xクラスの中にはプロがスタートを務めスリックを履く車両、Aドライバーがスタートを務めウエットを履いた車両が混在しており、アレジはウエットを履いた車両のピットインにともない2番手にポジションを上げた。ただ、後方からは#81 GT-Rが接近。アレジは序盤から緊迫した戦いを強いられると、21周目、先行を許してしまう。

とはいえ僅差の2番手。トップはまだ射程圏内だ。スタートから1時間24分という長いスティントをこなしたアレジは「難しいコンディションで、対応するのが大変だったね。クルマの重さも感じたけれど、しっかり繋がったと思う」と戦いを振り返った。

この頑張りを書いたのは、監督でもある片岡だ。この頃には完全にドライに転じ、50周を過ぎる頃になるとトップを走っていた#31 RC F、#81 GT-Rと三つ巴の戦いを展開。サーキットを沸かせた。#31 RC F GT3はAドライバーがドライブしているため早くかわしておきたかったが、実力ある相手。2台をかわすには3

周を要することに。しかし片岡はクリーンなバトルでこれを制すると、トップに立った。

片岡は70周目、ピットに中升 ROOKIE AMG GT3 を戻すと、鵜飼に交代する。「スティント前半はペースも速く、落ち着いて走ることができました」という鵜飼はピットアウト後、先行した#31 RC F GT3 の後方につける。#81 GT-R がクラッシュしたこともあり、2番手をしっかりキープして戦っていた。

そんななか、まさかのアクシデントが起きた。スタートから3時間25分過ぎのこと。ヘアピンで小倉康宏が駆る ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept に遭遇した。鵜飼は抜きにいったが、コーナーにいたもう1台とのやり取りがうまくいかず、小倉と接触してしまったのだ。小倉はグラベルにストップしてしまう。

幸い、鵜飼と小倉のアクシデントはペナルティ等もなく、小倉もピットに戻ることができたが、鵜飼は気が気ではない。「メンタルにきました(苦笑)。コンディション変化などの対応が理解できはじめましたが、とにかくいろんなことが頭をよぎりました」と鵜飼。

チームメイト同士のまさかの接触に、鵜飼がその後104周を終えピットインした後、小倉と鵜飼はピット裏でお互い苦笑いで詫びあった。そんな雰囲気も ROOKIE Racing ならではか。

中升 ROOKIE AMG GT3 は、車両のダメージもなく、最後はエースの蒲生がしっかりと最終スティントを走り切り、2位でレースを終えることになった。「今週は性能調整やウエイトも厳しい状況でしたし、2ヶ月のプランクがあるなか、苦しい週末になりました。しかしそんな中で鵜飼選手の成長もあり、勝つチャンスもあるかと思いましたが、#31 RC F が今週はスキがありませんでした」と片岡監督。「とはいえ、しっかり2位をつかみランキングも上げられたので、残り2戦に繋がるレースができたと思っています」

片岡監督が語るとおり、ランキングでもまだまだ逆転のチャンスがある。今季は毎戦のようにウィナーが変わる混戦模様だ。

2ヶ月ぶりのレースで、中升 ROOKIE AMG GT3 はそのポテンシャルと強さをみせた。次戦岡山で、目指すは勝利のみだ。



MORIZO's Voice



今回は3台そろって完走、1号車は優勝という目標は達成できませんでした。

けれど、我々にはチャレンジしたという努力の足跡が残ったと思います。

努力をして結果が出れば、それは自信になるでしょう。

努力もせずに結果が出ると、傲慢になります。

では、努力はしたけど結果が出ないときにどうなるか。

我々ひとりひとりに経験が残ります。

才能というのは有限だと思いますが、努力は無限です。

我々は努力をし続けていくことが大事だと思います。

改めて皆さんに、ご苦勞様でした。そしてありがとうと伝えたいと思います。

2024 年第5戦鈴鹿 リザルト (TOP5)

9月27日 スーパー耐久 STMO 専有走行1回目 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	92	GR Supra Racing Concept	2'14.343
2	61	SUBARU HighPerformanceX Future Concept	2'20.893
4	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'22.573
	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept	No Time

9月27日 スーパー耐久 STMO 専有走行2回目 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	92	GR Supra Racing Concept	2'15.404
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'19.701
3	271	Honda CIVIC TYPE R CNF-R	2'20.974
	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept	No Time

9月28日 スーパー耐久 フリー走行 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	92	GR Supra Racing Concept	2'11.327
2	271	Honda CIVIC TYPE R CNF-R	2'19.434
3	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept	2'20.785
4	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'23.345
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	2'23.894

9月28日 スーパー耐久 公式予選 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	92	GR Supra Racing Concept	4'23.447
2	271	Honda CIVIC TYPE R CNF-R	4'34.926
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	4'40.466
4	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept	4'40.987
5	12	MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER CNF concept	4'41.411

9月28日 スーパー耐久 公式予選Cドライバー (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	92	GR Supra Racing Concept	2'13.928
2	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept	2'19.939
3	61	SUBARU HighPerformanceX Future Concept	2'21.066
4	12	MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER CNF concept	2'21.513
5	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'21.711

9月28日 スーパー耐久 公式予選Dドライバー (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	92	GR Supra Racing Concept	2'13.756
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'22.378
3	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept	2'23.978
4	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	2'25.246
5	61	SUBARU HighPerformanceX Future Concept	2'25.866

9月27日 スーパー耐久 STMO 専有走行1回目 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	2'04.659
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'04.720
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	2'04.962
4	1	中升 ROOKIE AMG GT3	2'05.910
5	81	DAISHIN GT-R GT3	2'06.155

9月27日 スーパー耐久 STMO 専有走行2回目 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	2'06.497
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'06.930
3	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	2'07.149
4	31	DENSO LEXUS RC F GT3	2'07.623
5	1	中升 ROOKIE AMG GT3	2'08.708

9月28日 スーパー耐久 フリー走行 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	2'05.536
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	2'05.924
3	81	DAISHIN GT-R GT3	2'06.168
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'06.543
5	31	DENSO LEXUS RC F GT3	2'07.038

9月28日 スーパー耐久 公式予選 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	31	DENSO LEXUS RC F GT3	4'07.258
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	4'09.092
3	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	4'10.247
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	4'10.445
5	81	DAISHIN GT-R GT3	4'10.537

9月28日 スーパー耐久 公式予選Cドライバー (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	31	DENSO LEXUS RC F GT3	2'07.149
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	2'07.420
3	81	DAISHIN GT-R GT3	2'07.818
4	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	2'09.491
5	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'09.511

9月28日 スーパー耐久 公式予選Dドライバー (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	1	中升 ROOKIE AMG GT3	2'07.661
2	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	2'07.784
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	2'07.939

2024 年第5戦鈴鹿 リザルト

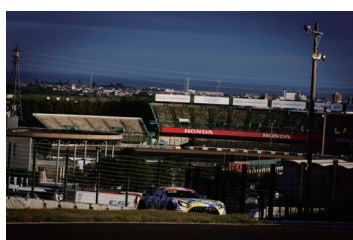
9月29日 スーパー耐久第5戦鈴鹿 決勝レース結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Laps	Time	Gap
1	92	GR Supra Racing Concept	120	5:01'37.183	
2	271	Honda CIVIC TYPE R CNF-R	114	5:02'17.326	6Laps
3	61	SUBARU HighPerformanceX Future Concept	113	5:00'37.514	1Lap
4	12	MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER CNF concept	113	5:01'46.848	1'09.334
5	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT Concept	113	5:01'56.462	9.614
6	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	112	5:00'40.534	1Lap

28 ORC ROOKIE GR86 CNF Concept D.N.S

9月29日 スーパー耐久第5戦鈴鹿 決勝レース結果 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Laps	Time	Gap
1	31	DENSO LEXUS RC F GT3	127	5:00'36.741	
2	1	中升 ROOKIE AMG GT3	127	5:01'16.335	39.594
3	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	126	5:00'44.418	1Lap
4	33	Craft-Bamboo Racing Mercedes-AMG GT3	125	5:00'48.935	2Laps
	81	DAISHIN GT-R GT3	107	4:25'24.449	20Laps



ROOKIE RACING

Super Taikyu
Japanese Endurance Race

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

